

牛久：学校周辺に見る自然

第29号 ひたち野西近隣公園(ひたち野うしく小)

2011年7月24日発行

＜ 夏の水辺公園で生きもの探検！ ～その7. その他の動物＞

7/6、ひたち野うしく小3年生の水辺公園観察の続き。皆さんが見つけた動物を全部のせたいと思いつつ、時間もなく、最後の号が今頃になってしまいました。今回は鳥やカエル、カタツムリです。

1. ヒキガエル(左：ヒキガエル科)とアマガエル(右：アマガエル科)



左の黒いのがヒキガエルの幼体^{ようたい}、右の緑色をしたのがアマガエルです。

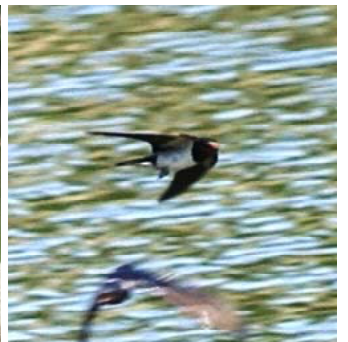
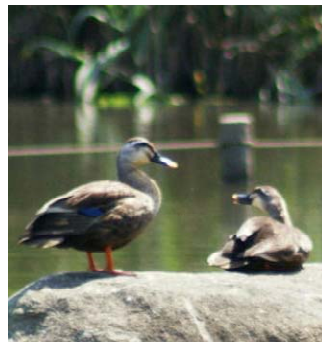
ヒキガエルのメスは1匹あたり2千～2万個の卵を産むといわれますが、あの黒いかたまりに見えたたくさんのオタマジャクシの中で、ここまで生きのびたのはどのくらいなのでしょう？オタマジャクシの段階^{だんかい}で多くが死に、子ガエルが上陸^{じょうりく}する時にも乾燥^{かんそう}などでたくさん死ぬそうです。逆にいえば、だからこそたくさん産むのかもしれないね。

2. ミスジマイマイ(オナジマイマイ科)



関東では最もふつうに見かけるカタツムリです。背中にこげ茶色のすじがあり、からのすじはその名の通り3本のもので多いですが、2本とか1本のものもいます。本来、木の上で生活しますが、からのカルシウム^{ほきゅう}を補給するためでしょう、ブロック塀^{べい}などの上面をかじるようすも観察^{かんさつ}されます。見つけたときも、コンクリートの上にはいましたね。

最後に鳥の仲間^{あつ}。暑かったせいか、ツバメとキジバトくらいしか見られませんでしたね。さびしいので、下見の6/29に見た、ホオジロとカルガモも加えておきましょう。 【理科支援員 宮内】



3. キジバト(ハト科) 4. ホオジロ(ホオジロ科) 5. カルガモ(カモ科) 6. ツバメ(ツバメ科)